

令和8年度水道事業会計当初予算(案)について

補足資料

八戸圏域水道企業団

3. 予算の概要「前年度決算見込み比較」 増減の主な理由について

(金額：消費税込み)

収益的収支：水道水を作り届けるための収支

1 上水道事業収益

1 営業収益

1. 給水収益は、有収水量の減少により、水道料金収入が減少する見込みです。
2. 受託工事収益は、洋野町との共同施設設備の更新工事の減により、負担金収入が減少する見込みです。
3. その他営業収益は、道路改良工事等に伴う水道管移設工事の増により負担金収入が増加する見込みです。

2 営業外収益

1. 受取利息は、金利の上昇により、増加する見込みです。
2. 下水道業務負担金は、電算処理委託料が減少する見込みです。
6. 雑収益は、世増ダムの売電交付金が売電契約変更により、減収となる見込みです。

2 上水道事業費

1 営業費用

1. 原水及び浄水費は、電力料金の上昇に伴う動力費の増や、物価高騰等により工事請負費、委託料が増額となる見込みです。
2. 配水及び給水費は、道路改良に伴う水道管移設工事の減などにより工事請負費が減額となる見込みです。
3. 漏水対策費は、漏水調査業務等の委託料が増額となる見込みです。
4. 量水器費は、量水器検定満期取替件数の増により工事請負費が増額となる見込みです。
5. 受託工事費は、洋野町との共同施設設備更新工事費の減によるものです。
6. 業務費は、労務費の上昇に伴い、検針等業務委託料が増額となる見込みです。
7. 総係費は、退職給付費（引当金計上額）が減額となる見込みです。
10. 減価償却費は、償却資産の減少により、減額となる見込みです。

2 営業外費用

1. 支払利息は、企業債残高の増加及び利率の上昇により増となる見込みです。
5. 災害復旧費は、令和7年12月8日発生の青森県東方沖の地震に係る費用を計上したもので、令和7年度は、配水及び給水設備の修繕工事などを計上し、令和8年度は白山浄水場の渡り廊下等の修繕費を計上しています。

資本的収支：施設を建設・更新するための収支

(金額：消費税込み)

1 上水道資本的収入

1. 企業債は、ひばり野配水池・配水塔築造工事費の増額により、財源の借入金が増額となる見込みです。
2. 工事負担金及び寄付金は、道路改良工事及び区画整理事業に伴う水道管布設工事の減により負担金が減額となる見込みです。
3. 国庫補助金は、交付金対象事業費の増により、増額となる見込みです。
4. 水道加入金は、給水装置工事件数の増により、増額となる見込みです。

2 上水道資本的支出

1 建設改良費

2. 施設費は、令和7年度決算見込みと比べ、工事費が増額となる見込みです。

増減の主なもの

○施設整備費 +8億9,951万6千円

新ひばり野配水塔・配水池築造工事 (R5~R9) +4億6,372万7千円

「R7: 4億9,109万5千円 R8: 9億5,482万2千円計上」

馬淵配水塔内面防食工事 (R7~R9) +2億7,940万円

「R7: 計上なし R8: 2億7,940万円計上」

○管工事 △3億5,228万4千円

重要施設配水管改良工事 +2億2,744万5千円

「R7: 1億5,895万2千円 R8: 3億8,639万7千円計上」

八太郎大橋添架管更生工事 (R7年度完成) △4億3,923万2千円

水道管路緊急改善 (奥入瀬配水池~木内々ポンプ場) △2億5,328万6千円

「R7: 2億8,681万4千円 R8: 3,352万8千円計上」

○その他 +1億8,614万1千円

財務会計システム更新業務委託 (R6~R9) △4,950万円

「R7: 9,350万円 R8: 4,400万円計上」

水道料金システム再構築業務委託 (R6~R9) +1億9,109万1千円

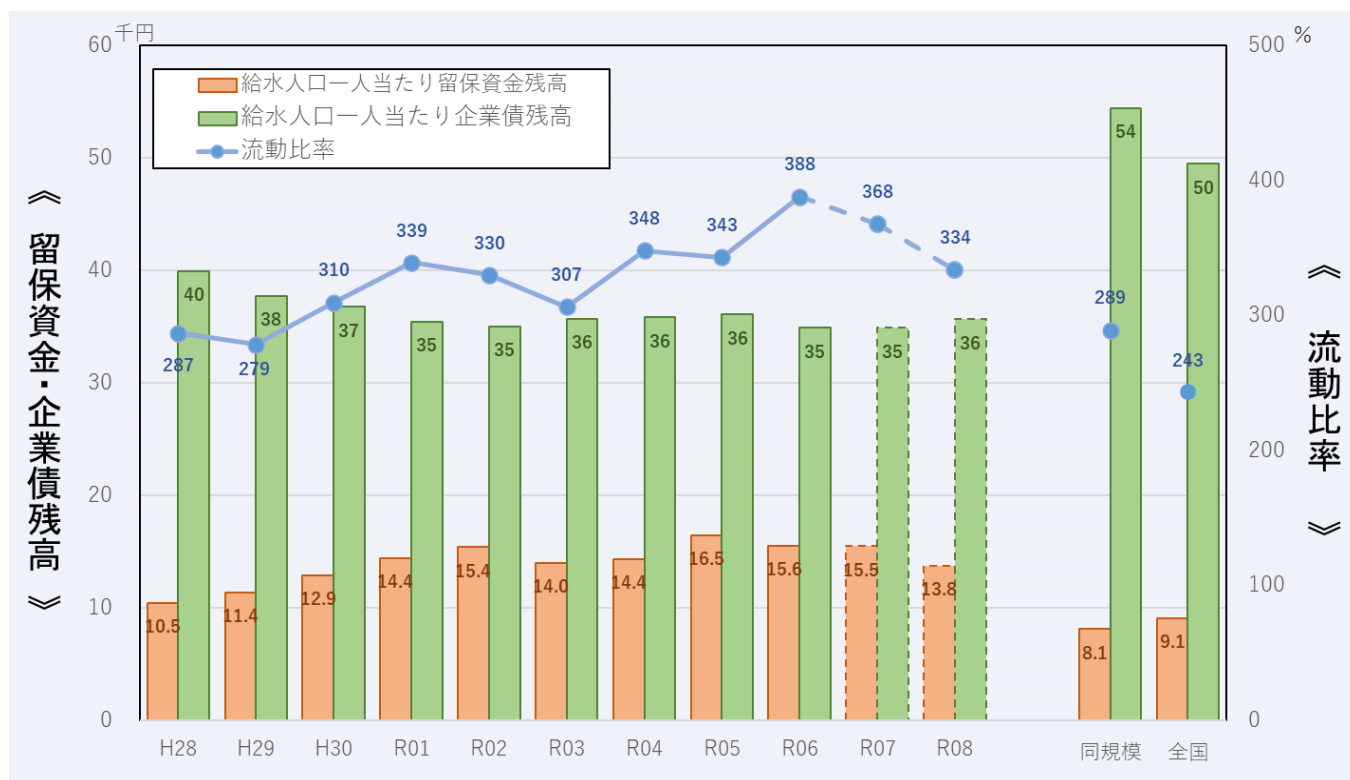
「R7: 8,470万円 R8: 2億7,579万1千円計上」

資本的収支財源内訳

(消費税込み)
(単位：千円)

項 目	予算額	資本的支出の財源内訳						
		資本的収入				補てん財源使用		
		企業債	国庫補助金	工事負担金	水道加入金	消費税調整額	損益勘定留保資金	積立金(利益)
上水道資本的支出	4,899,257	850,000	92,712	115,244	159,990	341,614	2,516,908	822,789
建設改良費	4,132,476	850,000	92,712	115,244	159,990	341,614	1,950,127	622,789
事務費	123,441	0	0	7,670	0	276	115,495	0
職員給与費	120,216	0	0	7,670	0	0	112,546	0
事務費(その他)	3,225	0	0	0	0	276	2,949	0
施設費	3,909,429	850,000	92,712	107,574	159,990	332,282	1,744,082	622,789
管路整備事業	1,956,933	250,000	92,712	107,574	95,019	160,837	884,505	366,286
①重要施設配水管(桔梗野小学校ほか)	386,397	160,000	78,158	0	9,366	27,171	78,991	32,711
②水道管路緊急改善(奥入瀬配水池～木内々ポンプ場)	42,306	10,000	9,665	0	1,431	2,837	12,992	5,381
③緊急輸送道路CIP更新	33,528	10,000	4,889	0	1,178	2,497	10,582	4,382
④白山～蟹沢送水管布設工事	78,375	20,000	0	0	3,688	6,790	33,871	14,026
⑤区画整理・道路改良に伴う布設	145,464	0	0	80,074	4,131	12,848	34,234	14,177
⑥その他配水管更新・布設	1,240,613	50,000	0	0	75,225	105,944	713,835	295,609
⑦消火栓設置工事	30,250	0	0	27,500	0	2,750	0	0
施設整備事業	1,879,013	600,000	0	0	60,328	165,336	815,216	238,133
①新ひばり野配水塔・配水池築造工事	924,191	600,000	0	0	0	84,017	240,174	0
②その他施設整備	954,822	0	0	0	60,328	81,319	575,042	238,133
調査費・用地及び補償費	73,483	0	0	0	4,643	6,109	44,361	18,370
その他施設費(器具備品購入費)	66,355	0	0	0	0	6,033	60,322	0
リース債務支払額	33,251	0	0	0	0	3,023	30,228	0
企業債償還金	766,781	0	0	0	0	0	566,781	200,000
合 計	4,899,257	1,217,946				3,681,311		

留保資金の状況



同規模：給水人口15万人以上30万人未満 ・ 末端水道事業計(企業年鑑より)

流動比率 = 流動資産 / 流動負債 × 100 < 短期的資金の状況 >

留保資金残高 = (投資 + 流動資産) - (流動負債 + 固定負債引当金 + 積立金)

企業債残高 = 固定負債・建設改良に係る企業債 + 流動負債・建設改良に係る企業債

6. 財政計画比較

⑤指標比較【KPI】

(1) 有効率

指標の解説	水道施設を通して給水された水量が、どの程度有効に使用されているかを示すもので、経営の効率性を表す指標					
算出式	$(\text{年間有効水量} \div \text{年間配水量}) \times 100$					
R8年度値	目標値	92.5%	予算値	91.7%	増減	-0.8%
評価・分析	財政計画より漏水量・不明水量が多いと見込んだため、予算値は目標値を下回った。令和7年度は、地震により漏水量・不明水量が増加したため、低下する見込みである。					

(2) 有収率

指標の解説	年間配水量に対する年間有収水量の割合を示すもので、水道施設を通して給水された水量が、どの程度収益につながっているかを表す指標					
算出式	$(\text{年間有収水量} \div \text{年間配水量}) \times 100$					
R8年度値	目標値	90.2%	予算値	89.4%	増減	-0.8%
評価・分析	財政計画より漏水量・不明水量が多いと見込んだため、予算値は目標値を下回った。令和7年度は、地震により漏水量・不明水量が増加したため、低下する見込みである。					

(3) 管路の更新率

指標の解説	管路総延長に対する当該年度に更新した管路延長の割合を示すもので、管路の更新ペースが把握できる。数値が2%の場合すべての管路を更新するのに50年かかることになる。					
算出式	$(\text{当該年度に更新した管路延長} \div \text{管路延長}) \times 100$					
R8年度値	目標値	0.24%	予算値	0.32%	増減	0.08%
評価・分析	令和8年度予算値は、目標値を上回っているが、長期的には低下傾向にある。同規模平均と比較して低い値となっている。					

(4) 浄水施設の耐震化率

指標の解説	全浄水施設能力に対する耐震対策が施されている浄水施設能力の割合を示すもので、地震災害に対する浄水処理機能の信頼性・安全性を表す指標					
算出式	$(\text{耐震対策の施された浄水施設能力} \div \text{全浄水施設能力}) \times 100$					
R8年度値	目標値	42.1%	予算値	42.1%	増減	0.0%
評価・分析	実施事業なし。同規模平均と比較して低い値となっている。					

(5) ポンプ所の耐震化率

指標の解説	耐震化対象ポンプ所能力に対する耐震対策が施されたポンプ所能力の割合を示すもので、地震災害に対するポンプ施設の信頼性・安全性を表す指標					
算出式	$(\text{耐震対策の施されたポンプ所能力} \div \text{耐震化対象ポンプ所能力}) \times 100$					
R8年度値	目標値	94.2%	予算値	94.2%	増減	0.0%
評価・分析	実施事業なし。同規模平均と比較して高い値となっている。					

(6) 配水池の耐震化率

指標の解説	全配水池容量に対する耐震対策の施された配水池の容量の割合を示すもので、地震災害に対する配水池の信頼性・安全性を表す指標					
算出式	$(\text{耐震対策の施された配水池有効容量} \div \text{配水池等有効容量}) \times 100$					
R8年度値	目標値	49.9%	予算値	49.9%	増減	0.0%
評価・分析	令和8年度予算値は、目標値と同じ値であるが、同規模平均と比較して低い値となっている。新ひばり野配水塔・配水池築造工事の完成により令和10年度は上昇する見込である。					

(7) 管路の耐震管率

指標の解説	全ての管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する水道管路網の安全性、信頼性を表す指標					
算出式	$(\text{耐震管延長} \div \text{管路延長}) \times 100$					
R8年度値	目標値	46.9%	予算値	46.8%	増減	-0.1%
評価・分析	令和8年度予算値は目標値を下回る見込みであるが、同規模平均と比較して高い値となっている。					

(8) 基幹管路の耐震管率

指標の解説	基幹管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する基幹管路の安全性、信頼性を表す指標					
算出式	$(\text{基幹管路のうち耐震管延長} \div \text{基幹管路延長}) \times 100$					
R8年度値	目標値	73.9%	予算値	74.1%	増減	0.2%
評価・分析	令和8年度予算値は目標値を上回る見込みである。同規模平均と比較しても高い値となっている。					

(9) 重要給水施設配水管路の耐震管率

指標の解説	重要給水施設への配水管の総延長に対する耐震管延長の割合を示すもので、大規模な地震災害に対する重要給水施設配水管路の安全性、信頼性を表す指標					
算出式	$(\text{重要給水施設配水管路のうち耐震管延長} \div \text{重要給水施設配水管路延長}) \times 100$					
R8年度値	目標値	54.5%	予算値	54.7%	増減	0.2%
評価・分析	令和8年度予算値は目標値を上回る見込みである。令和7年度より「上下水道耐震化計画」に基づく重要施設管路を対象としたため、令和7年度の指標値は減少する見込みである。					

6. 財政計画比較

⑤指標比較【経営指標】

(1) 職員一人当たり有収水量

指標の解説	水道サービスの生産性・効率性を評価する指標で、有収水量の規模に照らして、人員数が適切であることを示す指標。					
算出式	年間総有収水量 ÷ 損益勘定職員数					
R8年度値	予測値	173,662m ³ /人	予算値	174,400m ³ /人	増減	738m ³ /人
評価・分析	年間総有収水量が増加する見込みのため、予算値は予測値を上回った。指標値は、同規模平均と比較し低い値となっており、労働生産性が低いことを示している。					

(2) 企業債償還元金対減価償却費比率

指標の解説	投下資本の回収と再投資との間のバランスを見る指標。一般的にこの指標が100%を超えると、再投資を行うための資金を企業債等の外部資金に頼らざるを得なくなる。					
算出式	建設改良のための企業債償還元金 ÷ (減価償却費 - 長期前受金戻入) × 100					
R8年度値	予測値	30.89%	予算値	31.08%	増減	0.19%
評価・分析	企業債償還額が増え、減価償却費が減るため、令和8年度の予算値は予測値を上回った。指標値は、同規模平均と比較して低い値となっており、長期的に低下傾向にある。					

(3) 有形固定資産減価償却率

指標の解説	有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表した指標で、資産の老朽化度合を示す指標。					
算出式	有形固定資産減価償却累計額 ÷ 償却対象資産の帳簿原価 × 100					
R8年度値	予測値	55.58%	予算値	55.41%	増減	-0.17%
評価・分析	令和8年度予算値は、予測値を下回っているが、長期的に上昇傾向にあり、同規模平均と比較しても高い値となっている。施設の老朽度合は進行するが、資産の長寿命化を図りながら、最大限有効活用する資産管理を行っている。					

(4) 有収水量1m³当たり資産合計

指標の解説	どの程度効率よく施設を使用して給水を行っているかを表す指標。資産の規模は団体により異なるが、遊休資産や未稼働資産が多い場合は、数値が高くなる傾向にある。					
算出式	資産合計 ÷ 年間総有収水量					
R8年度値	予測値	3,541円/m ³	予算値	3,512円/m ³	増減	-29円/m ³
評価・分析	令和8年度予算値は、予測値を下回った。指標値は、同規模平均と比較しても高い値となっており、資産の効率性が悪いことを示している。					

(5) 施設利用率

指標の解説	一日給水能力に対する一日平均配水量の割合を示すもので、施設の利用状況（効率性）や適正規模を判断する指標。一般的に高い数値であることが望ましい。					
算出式	一日平均配水量 ÷ 一日配水能力 × 100					
R8年度値	予測値	54.51%	予算値	55.58%	増減	1.07%
評価・分析	令和8年度予算値は、配水量が計画値より増加する見込みのため、予測値を上回ったが、指標値は同規模平均と比較して低い値となっている。今後も低下傾向にあることから、施設利用の効率性は悪化する状況となる。適正規模での施設更新計画が必要であることを示している。					

(6) 経常収支比率

指標の解説	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかという、収益性を示す。この指標は単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要。					
算出式	経常収益 ÷ 経常費用 × 100					
R8年度値	予測値	102.99%	予算値	103.63%	増減	0.64%
評価・分析	令和8年度予算値は、予測値を上回っており、100%以上を確保しているが、物価上昇などの影響により低下傾向にあるため、より一層の経費削減が必要である。					

(7) 料金回収率

指標の解説	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかという、料金水準を評価する指標。この指標が100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味する。					
算出式	供給単価 ÷ 給水原価 × 100					
R8年度値	予測値	99.17%	予算値	100.13%	増減	0.96%
評価・分析	令和8年度の予算値は、予測値を上回り、100%以上を維持できる見込みであるが、経常費用が増加する影響で、指標値は低下傾向となっており、経営状況は厳しくなっている。より一層の経費削減が必要である。					

(8) 流動比率

指標の解説	短期的な債務に対する支払い能力を表す指標で、1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示す100%以上であることが必要。					
算出式	流動資産 ÷ 流動負債 × 100					
R8年度値	予測値	323.44%	予算値	334.16%	増減	10.72%
評価・分析	令和8年度予算値は、予測値を上回った。指標値は、同規模平均と比較して高い値となっており、短期的な支払能力を示す100%以上を確保している。					

(9) 自己資本構成比率

指標の解説	資金の調達源泉である総資本（負債・資本合計）に対する、自己資本（資本金+剰余金）の割合で、財務の長期的な安全性を示す指標。					
算出式	(資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益) ÷ 負債・資本合計 × 100					
R8年度値	予測値	85.47%	予算値	85.44%	増減	-0.03%
評価・分析	令和8年度予算値は、予測値と同程度となった。指標値は、同規模平均と比較して高い値となっており、横ばいで推移している。					